
Fate/crossover

XXX

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fate/crossover

【Nコード】

N3727Z

【作者名】

XXX

【あらすじ】

ありとあらゆる願いを叶える事ができる万能の釜『聖杯』。その願望機を

求め、数十人の魔術師が殺し合う一つの戦い『聖杯戦争』……ある者は

愛する者を救う為、ある者は己が殺しの悦楽を味わう為、ある者は名誉を欲し、またある者は絶望した世界を変える為に戦う。さあ！戦いの幕は

上がり今、一つの願望機を巡る物語が動き出す！

Fate/crossover 用語解説(前書き)

本作はFateの二次創作にして、様々なキャラクター達がサーヴァントとなつて

召喚されるクロスオーバー作品でもあります。

設定、世界観などが大きく異なっているので、そういったモノが嫌いな方は

閲覧しないことをお勧めします。

【聖杯】

偉大にして世界最後の4人の魔術師の1人

『アレイスター・クロウリー』が数百年の月日を経て創り上げた

『万能の釜』であり、聖遺物の聖杯とはまた別の物。

ありとあらゆる願いが叶うとされ、

『聖杯戦争』を引き起こす引き金となった。

【聖杯戦争】

上記の聖杯を求める魔術師たちの戦争である。

魔術師 ウィザード と言っても、根っからの魔術師ではなく

元はごく普通な生活をしていた一般人である。

アレイスターから魔術回路を貰う事で初めて魔術師になると同時に聖杯戦争の参加者としての資格を得る。

尚、この魔術回路が何からの理由で破損した場合はサーヴァントがいようと敗退者になってしまう。

【アレイスター・クロウリー】

数多に滅び去った魔術師。その最後の4人の一人にして、偉大な魔術師。聖杯を創った張本人でもある。

彼については多くの謎が存在するが、分かっている事は彼が不老不死であり、途方も無い時間を生きていると言う事だけ……

【魔術師 ウィザード】

奇跡の体現者であり、常軌を逸した奇跡の現象・事象を現実化させる者達の総称。かつては数多くの魔術師が存在したが70年前に魔術師の間で起こった『魔術戦争』により魔術師の家系が絶えてしまい、家系を持たない魔術師も同じように滅び去った。

今では4人の偉大な魔術師が生き残り、ひっそりと暮らすだけの現状となっている。

【サーヴァント】

並行世界において偉大な功績を残した異能の力を持つ者達の総称。彼等は死後、『英霊の座』と呼ばれる世界へ導かれ、未来永劫その地へ留まる。

だがサーヴァントとして召喚されるのなら話は別となる。

サーヴァントの召喚というのは聖杯の力と召喚者である魔術師の魔力『オド』によって行われ、魔術師はオドをサーヴァントに供給することでサーヴァントを現世へと留める役目を担う。

サーヴァントにはそれぞれのクラスがあり
セイバー、アーチャー、ランサー、ライダー、アサシン、
キャスター、バーサーカー、アヴェンジャー、ファイター、
クリーチャーの10のクラスが存在する。

そして全てのサーヴァントには『宝具』と呼ばれるモノがある。
自身を象徴する武器であり、能力であったり、
またはそれ以外のモノであったりもするので、
宝具がすべて武器とは限らない。

一年前 聖杯戦争への序章 / 3体のサーヴァント召喚

ある所に1人の男がいた。男は誰よりも『平和』を愛し、その為に多くの命をその手で消し去ると同時に多くの命を救った。

10人の内、多数の9人を救う為少数である1を犠牲にする。まさに簡単な話だった。

簡単な話だが……とても残酷な選択でもあった。

それでも男は必要な時に感情を殺し、大勢の人々を救った。

そしてその大勢の人々を救う為に少数の人々を手にかけて……そんなことを繰り返して行く中で

男は全ての人間を救済したいと思った。だがそれは不可能に近く、幻想に近かった。

どんなに願おうと『多数を生かす為に少数を殺す』という世界の一つのシステムが

ある限り、喜びと同時に悲劇が起こる。

男は不条理な世界を憎みつつ絶望していった。

そんな男の前に『彼』は現れた。

彼は自らを『魔術師 ウィザード』と名乗り、万能の願望機『聖杯』とそれを巡って戦う

『聖杯戦争』を語った。そして彼は問うた。

『貴方の幻想同然の願い、叶えたいのであれば一年後に行われる聖杯戦争に参加してみる気はありますか？ もし参加するのであれば、私は貴方を聖杯戦争の参加者『魔術師』と認め、その証たる『魔術回路』を差し上げます。どうしますか？』

男は即答した。自らが抱く幻想に近い夢。

それを現実のモノにできるのであれば、どんなに危険な道でも迷わず進む……男はそれだけの覚悟があり、揺るぎようの無い『決意』の炎が強く、その瞳に灯っていた。

『では……貴方を一年後に行われる聖杯戦争の参加者と認め、証たる魔術回路を授けましょう』

『神代市』。そこはかつて前回の聖杯戦争が行われた地であり、再び行われる聖杯戦争…すなわち『第3次聖杯戦争』の舞台となる場所である。

その街にある一つの屋敷に魔術師戦争で生き残った偉大な魔術師の1人『蘆夜 土岐臣』は暮らしていた。彼もまた『第3回聖杯戦争』に参加する魔術師であり、万能の願望機たる聖杯に託す願いは自分の後継者にして娘である『蘆夜 燐香』に強力な魔力を与える事である。

今や奇跡の体現者たる魔術師は土岐臣と聖杯戦争の首謀者であるアレイスターを含めた4人の偉大な魔術師のみ…アレイスターはともかく、土岐臣を含めた3人の魔術師は愛する人を娶り、自らの後継者に後代における魔術師復興の要を担わせている。

いつしか彼等が自分達と同じように魔術を極めていき、『偉大な魔術師』となって魔術師の時代を今一度築きあげるその日の為に…

故に土岐臣はその要の中心には自分の娘が相応しいと考え、その為に『大きな力』…すなわち願望機によって生み出された強力な魔力を娘に与えようと考えたの

だ。

「準備は整った。あとはこの私がサーヴァントを召喚し、一年後に行われる聖杯戦争に勝つだけ……」

土岐臣は自室の机のイスに腰掛け、木製の机に置かれた箱を見ながらそう言った。

その箱にはアレイスターから送られた一枚のペンタクル 六亡星の描かれたカードがあった。

サーヴァント召喚に必要な物で、これを召喚陣の中心に置き詠唱することで初めてサーヴァントを召喚することができる。

そして魔力の籠った上等な『魔道遺物』さえあれば、高確率で最強に属するサーヴァントを

召喚できる。その為の『魔道遺物』は既に準備しており、後は召喚陣を描いて詠唱。

サーヴァントを召喚するだけである。

「もしこれで……目当ての最高ランクのサーヴァントが現界すればその時点で私……いや、

『私達』の勝利は決まったも同然か」

誰に言うわけでもなく、土岐臣の独り言はそのまま虚空へと消えて

いった……

そこはとある倉庫街の一角。1人の男はそこで召喚陣を描き、ペンタクルの描かれたカードを召喚陣の中心に置き、詠唱を始めた。倉庫の中なのか…薄暗いせいで男の姿を視認することができない。

「告げる」

「汝の身は我が下に」

「我が命運は汝の武にあり」

「聖杯の誘いに抗うことなく従い」

「この意、この理に同意せしめるなら応えよ」

「誓いを此処に」

「我は常世全ての善となる者」

「我は常世全ての悪を敷く者」

「汝、狂いし気を身に纏う者！」

「出でよ！ 英霊の座より来たれ！」

詠唱を唱え終わった瞬間、凄まじい光が倉庫全体を包み込み
すべてが真っ白に染まる。そして少しずつ光が弱まっていき、召喚
陣から溢れ出る煙と共に
それは姿を現した。

『白い服を着た少女』……それがサーヴァントの姿を確認した男の
最初の感想だった。

白い服に白い帽子を被ったまさに白装束の少女は男を見つめ、そし
て言い様のない無垢な
笑みで男に質問した。

「サーヴァント『バーサーカー』、召喚に応じ来ちゃいました
貴方が私のマスターでいいのかな？」

男がバーサーカーを召喚したその同時刻。
土岐臣も自身のサーヴァントを召喚する為、詠唱を行なおうとしていた。

「告げる」

「汝の身は我が下に」

「私の運命は汝の武にあり」

「聖杯の誘いに抗うことなく従い」

「我に力を貸し与えるのならば、応えたまわん！」

「契約の誓いをここに」

「私は常世全ての善となる者」

「私は常世全ての悪を敷く者」

「汝、絶対の力を振るいし者なり！」

「出でよ！ 英霊の座より来たれ！」

輝きを増していった召喚陣は詠唱が終わると同時に煙を残し消え去り、

その消え去った煙の中から一つの影が姿を現した。

「我が名は創世王シャドームーン…聖杯と貴様によって招かれた者にして、

此度の聖杯戦争において『ライダー』クラスをもって現界した。貴様がこの俺のマスターで

あることに相違、否定はあるまいな？」

「ここに聞け」

「汝の身は我が下に」

「私の運命と信頼は汝の武にあり」

「我が問いに、聖杯の導きに抗うことなく従い」

「我が剣となり、盾となるならば応えよ」

「契約の儀をここに」

「我は常世全ての善となる者」

「我は常世全ての悪と成りし者」

「英霊の座より、来たれ！」

幻想に等しい夢を抱く男… 『上谷 紫騎』は、詠唱し自らのサーヴ
アントを呼び出す。
そして現われた者は……

「この私、サーヴァント『ファイター』に現界した者が問う。
貴方がこの私をこの世界へと招き入れたマスターですか？」

黒き衣装を身に纏った、鬨気溢れる1人の少女だった……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3727z/>

Fate/crossover

2011年12月13日01時52分発行